■第３回会津美里町観光振興計画策定委員会議事録

日　　時：平成 27 年 10 月 15 日（木）13:30～15:45
場　　所：本郷庁舎　ふれあいセンター（2 階会議室）
出席委員：石原委員、小泉委員、村松委員、星野委員、高梨委員、小林委員、長谷川委員（計７名）
事 務 局（会津美里町商工観光課）：阿部課長、鈴木課長補佐、立川係長、川田主任主査
　　（㈱コムテック地域工学研究所）：須原、脇門

１．開会（副委員長）

２．委員長挨拶

・本日は第 3 回ということで、第 1 回、第 2 回の議論を受けて、具体的な議論をして頂きたい。
・今日は新潟から 49 号線を通って会津美里町にやってきた。車の窓を開けて走ってきたが、実にすばらしい景色で、朝晩寒いのが信じられないくらいの良い天気だった。これまでのご意見にも出ている、会津美里町の景色が素晴らしいことが実によく分かった。山を越えて盆地に入ってきた時の景色の素晴らしさをどうやったら活かせるのかを考えたのと同時に、どうやってアピールするかについてもいずれ議論して頂きたい。

３．議事

（１）会津美里町観光振興計画＜素案＞について

（１）－①素案の概要

（コンサルタントより資料説明）

＜委員長＞

・着地型観光に関するデータの代わりとして観光客のニーズについて整理しているが、着地型の定義をどのように考えているか。

＜事務局（コンサルタント）＞

・地域の資源を活かした観光商品で、地元の側から発信するものと認識している。観光客が何を求めているのかを把握することにより、会津美里町の資源がどのようなニーズにマッチするのか把握できるのではないかとの考えから、ここでは観光客のニーズについて示した。

＜委員長＞

・将来像に「会津の旅の目的地を目指す」とあるが、この目的地はどのような意味か。

＜事務局（コンサルタント）＞

・最初の段階では、会津若松市、大内宿（下郷町）、喜多方市などの大きな観光地の観光客を会津美里町へ呼び込むことが必要になると思うが、最終的には会津美里町の観光資源を活用し他との差別化を図り、会津の中でも会津美里町にぜひ行きたいなと思えるようなものを作っていく、という意味で将来像を設定した。

＜委員長＞

・目的地はデスティネーション、最終目的という意味か。これについては議論の余地があるだろう。

＜事務局（コンサルタント）＞

・将来像に関しては、これまでも二転三転しているが、今日の段階では担当者の考え方からこの案を提示している。

＜委員長＞

・最終目的となると、宿泊施設の対応など様々な問題が出てくる。目的地の一つにはなるかもしれないが、ここが会津全体の目的地になると謳った場合、今後の施策設定が難しくなるのではないか。

＜事務局（コンサルタント）＞

・こちらの意図としてはそうではなく、現在の会津美里町は目的地の一つにもなっていない状況がある中で、会津の中で行ってみたい所のひとつになるという意味合いで書いている。

＜委員長＞

・意図は分かったが、このように文で示すと、これに束縛されるので、表現を改めてほしい。このままだと最終目的地のように認識してしまうので、厳しいと思う。

＜委員長＞

・今回示した素案は、最後に３つの地域に分けてアクションプログラムを設定したところが、大きなポイントとなっている。

＜委員＞

・過去の議論で、伊佐須美神社の入込客数が実態と合っていないとの指摘があったと思うが、それについて対応していないのか。

＜事務局（コンサルタント）＞

・p18「カテゴリー別にみた主要観光地」の表中のデータに関するご指摘だが、これについては事務局としても扱い方に悩んでいるところだが、本日の資料では、公式発表のデータとして示している。

＜委員長＞

・これ以外のデータはあるのか。

＜委員＞

・公式に発表できるデータではないが、以前に警察に聞いたことがある。警備計画を策定するために来場者を把握するので、実態に即した数値と思われる。近年のデータではないが、過去のデータでは、あやめ祭りと初詣時の来場者から見て、30 万人と推定されている。実態と大きく異なるデータを使うと計画策定を誤ってしまう恐れがあるので、まず実態数値を把握して、計画に反映させる必要があるのではないか。

＜事務局（町）＞

・伊佐須美神社の入込客数については、先の議会でも実態をきちんと把握するべきではないかとの意見が出ており、商工観光課でも、何か活用できるデータがないかと、リーサス等を当たったところである。

・観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」によると観光地点及び行祭事・イベントに訪れた人数を、観光地点等の管理者、行祭事・イベントの実施者等に月別に報告を求め調査する観光地点等入込客数調査の方法が示されており、本町においてもその方法に基づき入込データを入手している。公表数値がこのような把握方法をとっている点をご理解頂きたい。

・観光庁の平成 28 年度の概算要求を見ると、既存の観光ポイントにおける入込数の集計方法及び観光消費額を一体的に整備する項目があり、来年度以降、集計方法の改定ルールが示されるのではないかと期待している。

・別の把握方法としては、イベント時の㎡当たりの人数把握や、最も多く来る人がどの時間帯に何回訪れるかにより平均値を出す等の手法があるが、町としては、現状では聞き取り調査で対応している。

・また、これとは別に、寺社以外の、消費額が明確に分かる施設等を対象に、入込数と観光消費額について把握し、これらが 5 年後、10 年後、どうなっていくのかに力点を置いて目標値を定めたいと考えている。観光消費額が一番わかりやすいのではないか、町内にお金を落とす仕掛けを作り、町民に 1 円でも回っていけば、観光へ参加しようという意識も生まれるのではないか、と町としては考えている。

＜委員長＞
・あくまで公表値であり、ミスリードされないようにご理解頂きたい。

（１）－②分科会
＜事務局（コンサルタント）＞
・本日は、素案の「地域別アクションプログラム」について重点的にご議論頂きたい。資料は本日追加で配布した資料（地域別アクションプログラムの最新版と詳細版、及び施策メニュー一覧）を使用する。
・議論は、アクションプログラム１及び２を議論するグループ、アクションプログラム３・４を議論するグループに分かれて頂く。各グループ、２つのテーマについて、１時間程ご議論頂きたい。

（各テーブルへ移動し、議論）

＜委員長＞
・各グループの議論した結果について、各グループの代表の方に発表して頂きたい。

【アクションプログラム１及び２】
・本郷地域と高田地域は似たような課題がある。
・お勧めルートを設定した上での、マップ等により情報提供は現在もある。しかし、インフォメーションセンターに行ってみると、まず聞きにくい、また、スタッフからおすすめ情報等を教えてもらえない、スタッフが自信を持って伝えられない、という状況である。そもそも、インフォメーションそのものが入りにくく、場所が分かりにくい。
・また、駐車場に車を置いて散策する場合にも、駐車場の場所が分かりにくい。本郷地域の場合、インフォメーションセンターの前は駐車台数が限られており、すぐ近くの離れた所に駐車場があるのだが、その行き方が分からない。
・このように、まちの入口、インフォメーションセンターを含めた最初の案内から、しっかりやる必要があるのではないか。
・会津本郷焼の新たな楽しみ方として、女性の視点を活かすべきではないか。街コンでは陶芸体験が女性に人気である。女性が興味を持つような、気に入るようなプログラムを用意したり、また家族で来て子どもとどこを回るか楽しませるかというファミリー層、このような層に向けたプログラムを重点的に開発してはどうか。
・その他では、会津本郷焼をもっと幅広い生活用品の視点で活用できないか。例えば、生け花の華器は現在会津本郷焼で作られていない。
・回遊については、向羽黒山を含めた、歩いて回れるしくみがあると良いのではないか。
・空き店舗活用については、事業者らが借りて何かやってみようという企画はよく出るのだ

が、実際にそこに誰を張り付けるのかが課題になってくる。人件費が発生しないためにはどうしたらよいのか議論した。例えば、ボタンで呼び出すと人が出てくる仕組みにして、到着するまでロボットが対応するとの提案もあった。

・大沼高校など地元の高校生の力を借りてみてはどうか。アイディアを出してもらったり、参加してもらうなど。

・食の名物づくりに関しては、「カレー」の話題が出た。実はすでに町内の各店で特色のあるカレーが作られている。

・今年の大俵づくりは大沼高校生徒の協力があったように、まちづくりへの参加の実績がすでにある。会津坂下町では高校生が特産品開発に参加している。このような事例をみならい、地元の大沼高校とも協力しながら観光まちづくりに取り組んだら良いのではないか。

・本郷地域も高田地域も里の中の町として、見所がたくさんあるのと感じている。アクションプログラム１のところで、滞在時間を延ばしていくための仕掛けとあるが、これは重点的に取り組む必要があると認識している。インフォメーションセンターについては、自家用車利用者に限らず、まちを散策する場合、例えば欧米のまちの場合、どんなに不便なまちでも、ツーリストはまずはインフォメーションセンターを目指し、そこからどうやって滞在するか検討するという機能がある。イベントでも、本部事務所と回遊動線の関係性があるが、これらを踏まえると、会津美里町のインフォメーションセンターの機能は弱いのではないか。本郷地域と高田地域の既存のまち歩きマップは魅力的なイラストとともに作られているが、十分に利活用できているかどうか。スタッフがその魅力を理解し、案内できているのかというとまだ弱い。何気ない魅力を知ってもらうには、案内が必要なので、しっかり作っていく必要がある。

・天海大僧正については「天海カレー」という案が出た。

【アクションプログラム３及び４】

・ぶどう園あるいはワインだと、かなり特化した、狭められた内容になるので、かつ六次化となると一から始めなければならず、二重にハードルがあるのとの懸念がある。もう少し新鶴地域を見直した場合、風景や気候、例えば会津盆地の中で朝日が遠くに見える等の景色をどうにかして活かすことができないか、またそれを農と結びつけるには、というところからの発想で、観光ぶどう園ではなく、観光農園として整備する方が良いのではないか。当然、ワインも含まれるが、ワインぶどう用の土壌調査等はこのプランの中には入ってこないので、今現在使えるものを有効利用し、また既に高い評価のある新鶴シャルドネをうまく活用しながら、観光農園を整備していく方向が良いのではないか。

・そのためには、中田観音、法用寺等も合わせて検討していく必要があるが、そこに何かのキーワードがあると良い。例えば、元気が出るところ、浄化されるところ、ボケ防止など。「ころり」はあまりよくないとの意見もあった。「ころり」と聞いていかない人も実際にいる。もう少し万人向けの、響きの言葉を農園のキーワードに据えることで、ストーリーが

作りやすくなるのではないか。例えば、ここに来ると、ボケ防止になるよ、ご利益があるよ、浄化されるよ、元気になるよ等のキーワードが次から出てくるのではないか。

・新鶴地域では、これまで様々な作物は作られてきたが、商業施設などはなく、田畑だけなので、農園の中心としては最適ではないか。

・おたね人参の復興は、情報発信できるツールとして良いのではないか。この地域に不足している点として、お土産品がない、ここに来たら必ず食べなければいけない食がない等が挙げられた。ここにしかない品物を開発していくことが農園を作っていく上でも急務である。アクションプログラムでは食材の開発となっているが、それだけではなく、持って帰る、おなかに入れることを念頭に置いた商品開発が必要ではないか。

・プラットフォームについては、アクションプログラムにある図式は理想だが、現状をみると、情報発信の分野が非常に不足しており、また全国的に見ても手ごわい競合が少ないことから、ここに一番力を入れることによって、町を売る、知って頂くことができれば、プラットフォームはこれら情報発信の活動をしながら、形成されていくものではないか。わざわざ組織化して形から入るよりは、まずは情報発信で動いた上で、これを変換して行っていくプラットフォームのあり方が好ましいのではないか。

・今まで、情報発信の反省として、組織として作ってしまうと仕事になってしまう懸念がある。例えば、ネタを作らなければいけない、言葉を選ばなければいけない、写真を選ばなければいけない等。このようにがんじがらめの状況で情報発信するのは、自己満足に過ぎず、実は発信相手にとって有効な情報ではない。よって、仕事化するのではなく、遊びとしてできる特派員的なやり方、人数が増えれば増えるほどネタになる、という仕組みができないか。ただし、管理者がしっかり、特派員を過信しすぎずに、精度を高めていく。これにより、発信相手に対しては非常に視野が広がる。例えば、外国人を登用することによって、外国に発信できるなど。このようなシステムが重要ではないか。

＜委員長＞

・皆さんから出たご意見の通りだと思う。

・特に情報については、とにかく外に出して行くのが良い。色々なものを整えてから出すのではなく、走りながら、情報を出しながら、やっていくつもりでいないと、なかなか先に進まないのではないか。また、情報は世界に向けて発信する考え方が好ましい。むしろ、ここにある資源を外国の方に見つけてもらうくらいのつもりで良いのではないか。よって、発信のしやすさについての工夫が必要ではないか。

（２）目標値の設定について

（コンサルタントより資料説明）

＜委員長＞

・目標値については、目標とすべき項目含めて検討する必要がある。観光消費額については

昨年度のアンケート調査結果も考慮した上で、設定して頂きたい。

（３）ワークショップについて

（コンサルタントより資料説明）

＜委員長＞

・可能であれば、各世代の方に、さらに半数は女性の方に参加して頂き、幅広い意見が出るようお願いしたい。特に観光の主導権を握っている女性のご発言がとても重要と考えている。

＜委員＞

・ワークショップはほとんど人が集まらないのが実状で、せいせい 10-15 人で決まったメンバーが参加する。若い人も関心がなかなか向かない。

４．その他

＜事務局（町）＞

・その他のご意見等がなければ、副委員長より閉会のあいさつをお願いしたい。

５．閉会（副委員長）

以上